

校名：大阪教育大学附属幼稚園

所在地：〒547-0032 大阪市平野区流町 2-1-79 電話番号：06-6709-9400

記載日：平成 28 年 5 月 20 日 記載者：小池 美里 記載者役職：副園長

貴校の校風、おおまかな特色について：

本園は、都会の中にありながら、豊かな自然環境の中、身近な人々とのあたたかい触れ合いや、生き物たちとの日々のかかわりを通して、子どもたちのやさしく、あたたかく、思いやる心が育つことを願っている。

幼稚園の主人公は子どもであり、子どもの思いや願いを大切に生活している。子どもたちは遊びを通して様々なことを学んでいる。遊びこそが子どもの生活そのものであり、今日の子どもの姿から明日の生活が作り出されていく。常に子どもの今の姿を出発点として、個々の育ちや発達の状況、その時期にふさわしい遊び（生活）が展開されていくよう、努めている。



また、PTA活動が活発に行われ「いつでも どこでも どなたでも」の精神で、できる時にできる人が子どもたちのために活動を行っている。昭和 23 年より保護者手作り給食を実施しており、60 年にわたって受け継がれている。子どもたちに手作りの温かいものを食べさせてあげたいという願いと共に、食の安全や衛生、アレルギー対応など、時代の変化に応じた給食作りを目指している。

貴校の卒業生の活躍状況について：

- ① 姫松会という同窓会がある。毎年小学 1 年生～6 年生が集まり、懐かしい幼稚園で遊んでいる。また、周年行事の時には記念同窓会を開き、全卒園生に案内を送付し、その返信で現況を尋ねている。
- ② 本園保護者にも卒園生が多いので、その方々から情報をいただけることもあり、その情報は幼稚園が把握している。
- ③ 自分の志をもち、それを貫き活躍されている方が多い。特に本園の卒園生には、医療関係・教育関係の仕事をしている方と会社経営をしている方が多いのが特徴である。また、音楽関係の仕事をし、プロとして活躍されている方もいる。

貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

- ① OB会を隔年で行っている。連絡先の分かる全旧職員に案内を送付しているので、その返信で現況を把握している。
- ② 現況についての情報は、幼稚園がほぼ把握している。
- ③ 公立幼稚園に戻られた後は園長会会長・研究会会長・指導主事など中心的役割を果たされている。退職後は私立大学理事長、私立大学教授、私立幼稚園園長などとして活躍されている。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて

大学の専門的な先生方に来ていただき、科学実験、作陶、合唱などを一緒に体験させていただいている。

「ふしぎの日」

本学理科教育名誉教授に来ていただき年間 6 回程度、科学実験を見せていただいたり、一緒に実験したりする機会を設けている。理科離れが進んでいると言われる昨今、幼児期から実際に実験を見たり科学に触れたりする体験は、「ふしぎだな」という探求心や知的好奇心をもつことにつながっている。この取り組みを近隣の幼稚園に紹介することにより、同じような取り組みを行う園が数園あった。



「作陶の日」

本学美術教育講座の教授に来ていただき、親子で作陶をする日を設けている。親子で一緒に物をつくることで、親子の触れ合いができたたり、親も実際に粘土に触れたりし、子どもにとっては実体験をすることの大切さを再確認することにつながっている。子どもたちはこの時だけでなく、通年粘土で遊び、可塑性のあるものに触れることで自分なりに試行錯誤したり、その感触を味わったりしながら何かを創造することの楽しさを味わっている。



「合唱の日」

本学芸術専攻音楽コースの学生や教授に来ていただき自分たちが日ごろ歌っている歌や普段は聴くことのできないコーラスを聴かせていただいている。この姿に触発され、きれいな声で歌ったり、人に聴いてもらったりする喜びを味わうことにつながっている。

「話そう会」

本学学校教育講座の教授に来ていただき、保護者の日ごろの子育てについての悩みや思いを話し合う機会を設けている。一方的に話を聞くのではなく、グループごとで話し合い、自分の思いを出したり、考え合ったりする機会となっている。

昨年度話し合われたテーマ

子どもの性格について 子どもへのほめ方・しかり方
きょうだいげんか など

PTA活動が積極的に行われ、子どもたちに還元できる活動を中心に行っている。

「PTAクラブ活動」

保護者の希望者がクラブ活動を行っている。「音楽」「手話」「スポーツ」「園芸」「おはなし」「マジック」「手作り」の7つのクラブがあり、月1～3回程度活動している。この活動は子どもたちに還元できる活動とし、保護者が練習したものを子どもに見せてくださったり、一緒に活動したりしている。内容も充実しており、保護者一人一人の力が発揮できている。保護者自身が楽しみ子どもたちとかかわることで、子育ての楽しさを感じることもつながっている。



「保護者による手作り給食」

本園では昭和 23 年より保護者による手作り給食を行っている。また、去年は新しいメニューの試作会を保護者と栄養士、調理師が共に行った。この保護者による手作り給食を行うことによって保護者の食に対する関心が高まり、この取り組みは子育ての支援の一つとなっている。さらに、保健所の方が視察に来られた時には、衛生面で行き届いた配慮とメニューの充実について賞賛されたこともある。食の安全の重要性が取り上げられる今、この給食の取り組みは、今後認定こども園が増えることにより始まるであろう園給食にアピールできると思われる。



地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか

本園のある平野の地域には、本園の修了生も多いことから、子どもたちが散歩に出かけたり教職員が近隣に挨拶に出かけたりした時には気持ちよく声を掛けていただいている。また、地域をあげて行われる「平野町ぐるみ博物館」には本園も参加し、地域の方にもたくさんお越しいただいている。歴史と伝統のある本園は、長くこの地に在るので、地域の方々にも愛されていると感じる。

また、保護者による送迎のマナーのよさを、近隣の方からほめていただくこともある。安全を第一に保護者にも啓発していることから安全教育を大切に考えている幼稚園と認識されている。

研究会の時のみならず、保育や本園の保育の歴史的な資料を見に来られる参観者は多い。参観者は大阪だけでなく全国から来られる。このことを考慮すると、本園は大阪の幼児教育の中心的存在と考えられている。

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について

幼児教育界は現在 100 年に一度と言われる大きな転換期にある。現在公立・私立では保育施設の形態が大きく変わりつつある中で、保育の質の向上が叫ばれている。しかし、現状を見ると、この保育施設や形態、制度の急速な変化の中で、保育の内容をどう創造していくのかという戸惑いや不安が大きいように感じる。この中で、附属幼稚園は保育の質の向上のために、研究を行い、地域の幼児教育の中心となる存在であると感じている。また、教育現場で様々な課題に対応していくためには教育実習の在り方も大きな課題となっている。公立・私立でも教育実習は行っているが、その内容は附属とは大きく異なるのが現状である。現場に出た時に即戦力として働き、様々な教育の課題を抱えた現場で、前向きに向かっている教師を育てるためにも、附属で行っている教育実習は大きな役割を果たしていると感じる。今後はこの附属で行っている実習方法を、地域の学校園にも広めていく必要性を感じている。

大阪で唯一の国立大学附属幼稚園である本園では、毎年研究会を開催している。その折には毎回 200 名近くの参観者が訪れる。その参観者からは、もともとの自然豊かな環境に加え、常に今の子どもに向き合い環境を工夫していることと、子どもが中心となって活動できるような教師の援助がなされているということに好評を得ている。また、研究内容も一般的な研究内容ではなく、子どもの内面を大切にしたいきめ細かな研究を行っているという言葉も多くいただく。研究体制としては本学教授に指導助言をいただくだけでなく、研究協力員制度を設けている。大阪府下の公立・私立幼稚園・認定こども園の先生方に研究協力員となっていただき、本園の研究についてご助言いただいたり、一緒に学び合ったりしている。本園の研究協力員となり一緒に学び合うことで、各園・市へも還元できると言っている。本園の研究・教育活動に自園だけでなく、地域の園と協力することで、大阪府全体の幼児教育を支えることにつながっていると考えている。